ＳＲノート　2020 年　　山下の部屋

学習アドバイス　　第 54 回　水道橋山下クラス 1 月 28 日

昨晩は雪でした。28 日は寒い日ですが雪はありません。試験まであと半年の時期に入ります。昨日の講義は中上級先取り改正法講座でした。今年の改正は時効の改正が難解です。その他規制緩和や、社会保険の要件が一部変わりましたが、それほど大きな改正はありません。毎年改正講座を継続していますが、徐々に社会の仕組みが変わる様子に驚いています。書類の手続きもいずれは電子申請が普通の時代が来ています。

本日は合格講座の皆さんと健康保険法に入ります。まさに少子高齢化のなかで、安定した医療制度を継続、持続するために国保や、介護保険、高齢者の医療との連携が進んでおり、将来の保険体制の形も変わる時期に来ているように思えます。

■中上級

まもなく、合格講座と同じく、社会保険法に入ります。一度受験した経験を大事にしてください。いきなり、社会保険の一般常識の勉強を開始してください。テキストはまだ作成されていなければ、昨年のテキストで勉強をすすめてください。健保には、介護保険が連動しています。では介護保険を健保と同時に復習しましょう。

■合格講座

合格講座の皆さん。講義では基本テキストを使用しますが、基礎編で使用した、健保のテキストを利用しましょう。慣れているテキストで予習、復習をしてください。過去問の出題回数が多いところが重要箇所です。本格的な受験勉強になりますよ。初学者は勉強時間の工夫がポイントです。すべてを理解することは困難です。過去問の出題箇所にあわせて勉強時間の割り振りを行いましょう。

■合格者の紹介

真面目な方です。6 年間お付き合いしました。結果がでて私もホットしています。お仕事がお忙しい方です。40 代の男性ですが、総務の部署で活躍されています。

■合格体験記

★最初に

振り返れば 6 年間もお世話になってしまいました。私の人生で一番長くお世話になった担任の先生というのは小 5 から中 3 までの習った学習塾の先生でしたが、山下先生はその記録を上回ってしまいました。先生に初めて出会ったのは受験 2 回目の前日講座でした。そのインパクトで翌年は先生のクラスにしようと決めました。そんな先生を慕っていったのに、本当に怠け者の生徒で申し訳なかったです。「上ポン下ポン」「×問集め」「ノート 3 冊」…どれも最後までやり遂げたものはありません。本当にすみません。せっかく先生が多摩川に渡し舟を出してくださったのに、自分勝手に泳いで渡ってしまった感じです。

今年の 4 月に先生に面接をしていただきやっと悟りを開くことができました。それでも模試は 2 回目が 29 点、3 回目も 35 点と振るわず本当に途方に暮れてしまいました。もうベースとなる自分の基礎点すらとれなくなってしまったのかと。

ただ、今思うとここで崖っぷちに立たされ開き直ったのが転機でした。今までの年とは違い追い込まれた「当たって砕けろ」精神が生まれました。また、合格まで時間がかかったのは動機の弱さもあります。職場では 40 代半ば（当時）でベテランではありますが、やはり会議などでは低い役職の私の意見は軽く見られていることが多いような気がしたのです。（気のせいだけかもしれませんが）

そこで、社労士という立場になれば私の意見もそれなりに聴いてもらえるのではないかと考えたのです。当然、生活がかかっている訳ではありませんので動機としては弱いと思います。この度、合格したことでまわりは「先生、教えてください」と茶化してきますが、そのうち 40%分くらいは認め直してもらっているような気がします。今後はそれが続くようにさらに勉強していきたいと思います。

令和元年

①受験回数

8 回

	年度	学校	講座	教室	講師	択一	選択	
1	平成 24 年	他校				28	18	
2	平成 25 年	LEC	新合格講座	新橋		37	17	
3	平成 26 年	LEC	新合格講座	水道橋	山下先生	37	31	
4	平成 27 年	LEC	新ｽﾋﾟｰﾄﾞ合格ｺｰｽ＜ﾊｲﾚﾍﾞﾙ＞	水道橋	山下先生	34	22	
5	平成 28 年	LEC	上級講座	水道橋	山下先生	35	23	
6	平成 29 年	LEC	合格講座	渋谷	山下先生	35	31	
7	平成 30 年	LEC	上級講座	水道橋	山下先生	45	26	労基２・社一１
8	令和元年	LEC	中上級講座	水道橋	山下先生	45	32	社一２救済

②択一点数

労基	安衛	労災	雇用	徴収	労一	社一	健保	国年	厚年
6	3	4	5	3	3	1	5	7	8

③選択式点数

労基	安衛	労災	雇用	労一	社一	健保	国年	厚年
2	2	5	5	4	2	3	5	4

④合格した今の気持ち

合格したら今までに体験したことのない位の喜びを感じるのかとずっと思っていたが、いざ合格したら意外とそうではなかった。たぶん受験年数ばかり長くて勉強が惰性になってしまい、集中して「死ぬほど」勉強した時期がなかったからだと思う。でも、発表から数日たつと「念願の社労士になれ、現在の仕事に活かせるときがついにやってきた！」という喜びと「なんともいえない期待感」はだんだんと湧いてきました。

⑤勉強方法

毎年先生が「再受講生は決して「今年は全部やろう」と思ってはいけませんよ」とおっしゃっているにもかかわらず、毎年全部やろうとして結局時間切れで沈没することの繰り返し…。8 回目の最後の年も年明け、いや 3 月末までまだ全部やる気持ちになっていました。しかしついにここで目覚めました。（悟りをひらきました）

・もう今年も間に合わないことが確定した。

・このままでは今年もダメ。どうせ９回目になるなら 1 回分無駄にしてもいいから今年は一か八かで勝負しよう。

・各科目でるところベスト５だけに集中する。そこの過去問をひたすらやるだけ。

・ベスト５以外は選択式が怖いが、もうそれは７年の貯金だけで戦うことにする。

こんな勉強方法というよりも方針でやりました。

⑥講座の活用

自分自身の管理ができない性格なので、「通学」にこだわりました。通学でないとスケジュール正しく勉強が進められないからです。6 年目に「上級講座」でなはく「一般講座」にしたのは平日に山下先生の上級講座がなかっただけの理由です。

道場は「1・2・3」に限ります。この辺は他の方のたくさんの体験談に譲ります。

⑦苦戦した科目・得意な科目

得意な科目はありませんでした。どの科目も苦手でした。ただ、冷静に考えると各科目とも決して全部が苦手ではないのです。しかも自分の場合その苦手部分は先生のおっしゃる「科目別よくでるベスト５」には含まれていなかったのはラッキーでした。これに気付くまでに時間がかかりました。

⑧勉強時間と勉強の場所

平日は朝 1 時間自宅にて。夜は自宅かカフェで 1 時間半。休日は自宅で 4 時間程度。

こんな勉強量だからなかなか合格できなかったのですね…。

⑨直前の勉強方法

1）今年は 4 月に悟りを開いたこともあり、一夜漬けならぬ一月漬けに徹しました。

・「ホンモノのかたまり」である「1・2・3」をひたすら読む。小坊主がお経を覚える

ように。

・選択式で出題されたら泣くに泣けない「高額療養費」などのいやらしい公式シリーズを叩き込む。ひたすら唱えて写経のように書く。

２）直前の道場は「ハマり」ました。

・「過去問復元シミュレーション演習」には救われました。模試が 40 点、29 点と続き、7 月の 3 回目も 35 点と盛り返すこともできず、今年どころかもう永遠にダメだと落ち込みました。しかし逆にそれが「残された時間を考えるとやっぱり 1・2・3 を信じるしかない」と追い込んでくれることになり覚悟が決まりました。とは言ってもやっぱり「これで充分なのか？」と不安は消えませんでした。

　そのような気持ちで迎えた超直前期の「過去問復元シミュレーション演習」で 3 回とも 52 点程度をとることができました。すべて初見ではない問題ではないところを割り引いても本当に大きな自信となりました。「作り物である模試」ではダメでも「ホンモノの問題」ならなんとかなる力を自分は持っているのだと勇気が湧いてきました。

・「お盆特訓解きまくり道場」は確認テストという基本問題を五肢択一で解きまくることは、一月漬けの成果を試すのと、10 日後の本試験に向けて正答を見分ける「野生の勘の鋭さ」をピークに持っていく調整にはちょうどよかったです。

⑩本試験を振り返る

　これはもう「ラブレター作戦」しかありません。

　8 月にはいってから山下先生は「問題文はやっつける『敵』ではありません。答えを教えてくれる『ラブレター』なのです」と度々おっしゃられていました。今まで問題文とどう戦うのかと思っていたのですが、これはまさに目から鱗が落ちるお言葉でした。

　本試験当日、水道橋本校の玄関で見送ってくださるときも山下先生は「いいか、問題はラブレターだと思え」と励ましを送ってくださいました。

　私はそれを信じ、守りました。問題文は「幸せの国へ誘ってくれるラブレター」なのだと。なぜなら自分の知識は合格ギリギリ分しかないのです。５つの枝を 2 つまで絞るのがやっとです。あとは心のなかでひたすら女神に「こっちにおいでと誘ってくれる言葉（数字？行政官庁名？限る？）はどれなの？教えて♡」とたずねるしかありません。問題用紙には♡マークの書き込みがいくつも残っています。

　事例問題がきても「あらぁ、やっぱりいらしたの。あ・と・で・ね♡」とかわしました。事例問題も落ち着いて読めば半数は易しい問題だというのは過去問をやることで頭の中に刷り込まれていましたので全く動揺しませんでした。

　ただ、選択式ではやっぱり魔女の誘いがありました。見直しをしたらどうしても答えを書き直したくなったのです。「書き直しちゃだめと山下先生がいつもおっしゃっているけど、今の自分は落ち着いている。書き直して大丈夫だ」と決断までしたのですがもう試験時間が残り 1 分しかなく書き直すのを諦めました。

もちろん、書き直さなくて正解であり、書き直していたら不合格でした。今、冷静に振り返るとやはり「数字などの明らかの間違え」ではなく、「漠然と他の選択肢が正しそうに思えてきた」だけでした。全然落ち着いていなかったのですね。

余談ですが、試験会場の日大法学部のトイレから水道場本校に貼られた山下先生のポスターが見えました。その先生の笑顔には大きな勇気をいただきました。

⑩まとめ

自分は過去問により身につく「必要最小限で充分な知識」と「ホンモノを見分ける研ぎ澄まされた目」で合格することができました。結果としては山下先生の目指す理想形の合格となったのだと思います。しかし根拠のない独りよがりの不安のために先生を 100%信じるまでに時間がかかった分だけ不合格が続いてしまいました。冷静に考えれば講師生活 25 年の山下先生のおっしゃることが正しいに決まっているのに…。

こうした 8 年間の受験期間は豆腐 10 丁で反省し、次のステージに進みます。

最後に先生の雑談シリーズはとても大好きでした。「ラーメン屋さん」「床屋さん」「花屋さんとケーキ屋さん」「高尾山でお花摘んで」などありましたが私はやっぱり中高齢寡婦加算の「昨日まで毎日夫のお見舞いに来ていたのに 40 歳の誕生日になったとたんに「先生、夫を楽にしてやってください…」」が一番好きでした。　雑談シリーズ・寸劇。

これからは先生から頂いた「1・2・3」と「30 年データをメモした出る順テキスト」を家宝にしてさらに新しいステージにあがって精進していきたいと思います。

本当にありがとうございました。

令和元年合格（本当は平成時代に合格したかった）